SERIES リベラルアーツ：自由に生きるための知性とは何か？ Session 02

「なぜ人はあいまいさを嫌うのか ～コントロールしたい欲望を解き放つ～」参考文献一覧

講義スライドで紹介のあった文献をお伝えします。

■立命館大学大学院先端総合学術研究科 美馬達哉 教授「あいまいさを飼い慣らす・好む・利用する」

☆マックス・ウェーバー著、大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波書店、1989 年）

☆アリストテレス著、出隆訳『形而上学〈上〉〈下〉』（岩波書店、1959 年）

☆クリストフ・ボヌイユ著、ジャン=バティスト・フレソズ著、野坂しおり訳『人新世とは何か ―〈地球と人類の時代〉の思想史』（青土社、2018 年）

☆ウルリッヒ・ベック著、東廉/伊藤美登里訳『危険社会: 新しい近代への道』(法政大学出版局、1998 年)

☆アルジュン・アパドゥライ著、中川理/中空萌訳『不確実性の人類学:デリバティブ金融時代の言語の失敗』（以文社、2020 年）

☆ダニエル・カーネマン著、村井章子訳『ファスト&スロー(上)(下)あなたの意思はどのように決まるか?』（ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2014 年）

☆美馬達哉著『リスク化される身体 現代医学と統治のテクノロジー』（青土社、2012 年）

☆美馬達哉著『生を治める術としての近代医療―フーコー『監獄の誕生』を読み直す』（現代書館、2015 年）

☆美馬達哉著『感染症社会: アフターコロナの生政治』（人文書院、2020 年）

■立命館大学大学院先端総合学術研究科 小川さやか 教授「偶然であること、曖昧であることの豊かさ」

☆小島道一著『国際リユースと発展途上国: 越境する中古品取引』（アジア経済研究所、2014 年）

☆岸上伸啓著『贈与論再考 人間はなぜ他者に与えるのか』（臨川書店、2016 年）

☆中谷文美著、宇田川妙子著『仕事の人類学―労働中心主義の向こうへ』（世界思想社、2016 年）

☆小島慶子、伊藤亜紗、貴戸理恵他著『現代思想 2018 年 11 月号 特集=「多動」の時代 ―時短・ライフハック・ギグエコノミー―』（青土社、2018 年）

☆小川さやか著『都市を生きぬくための狡知―タンザニアの零細商人マチンガの民族誌―』(世界思想社、2011 年)

☆小川さやか著『「その日暮らし」の人類学 もう一つの資本主義経済』（光文社、2016 年）

☆小川さやか著『チョンキンマンションのボスは知っている: アングラ経済の人類学』(春秋社、2019 年)

☆春日直樹著『「遅れ」の思考―ポスト近代を生きる』（東京大学出版会、2007 年）

☆梶谷懐著、高口康太著『幸福な監視国家・中国』（NHK 出版、2019 年）

☆高須正和、高口康太他著『プロトタイプシティ　深センと世界的イノベーション』(KADOKAWA、2020 年)

以上